

だんだんテラスが繋ぐまちと図書館

—那須塩原黒磯駅前図書館の計画—

1. 計画背景

那須塩原市では、コンパクトで持続可能な都市構造への転換を図っていくために、地域の核である黒磯駅周辺を中心拠点区域に位置付けた都市再生整備計画（黒磯駅周辺地区）を平成 26 年 3 月に策定し、平成 30 年度末までに各種の施設を整備していくことを決定しました。

整備を予定している、(仮称) 駅前図書館は、従来の図書館としての機能だけでなく、地域住民同士はもちろん、地域住民と観光客の交流の場、まちの魅力の発信拠点などの機能を併せ持った総合的な交流拠点として、近傍に整備される予定の(仮称) まちなか交流センターと並び、地域にとって非常に重要な意味を持ちます

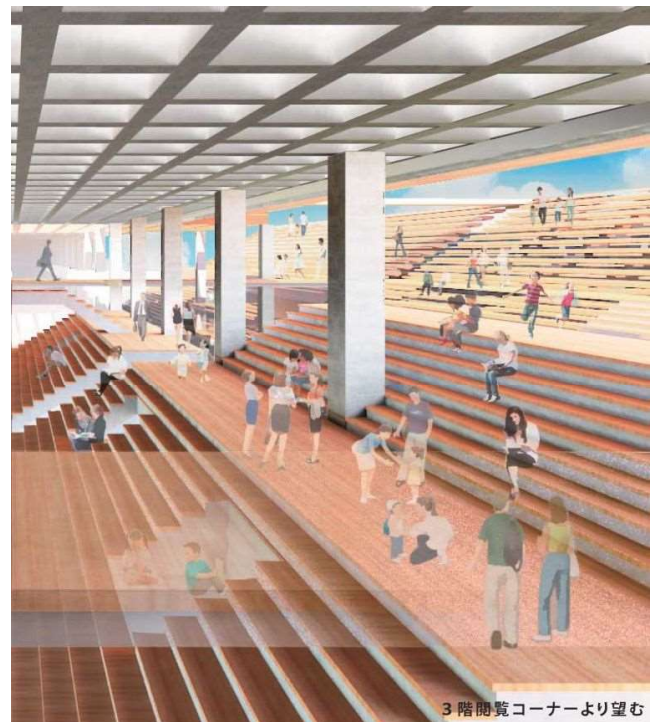
2. 設計主旨

駅はまちの核であり、人々の訪れの象徴でありました。住民からすれば、それは旅立ちや別れの場でもあり、旅人にとっては出会いの場でもあります。

本計画の駅前図書館は閑静な図書館の機能とともに駅の象徴を投影した魅力的な交流の場や賑わいが混在する施設を目指します。

対照的な二つの要素は、だんだんテラス（階段状のテラス）が連続的に結ばれ、人々の多様な文化活動を受け入れます。

単なる通過点ではなくなった駅前には、図書館を核に、まちを賑わそうと考える人々が繋がり、繁栄を生み出すことを目指した総合的な交流拠点となります。



3. 提案内容

3-1. 黒磯のまちのありかた

黒磯のまちを、宇都宮線と東北本線を結ぶまちと考えます。黒磯駅前図書館をつくることで、地域住民の利用、観光客の利用を期待します。目的の異なる利用者が混ざり合う黒磯に、交流と開放の機能を持たせることで、地域と遠来者の交流を図ります。

黒磯の活力に期待し、多くのひとが、黒磯のまちを使いこなすことができる計画とします。

3-2. 施設成形イメージ / ひとを引き込む

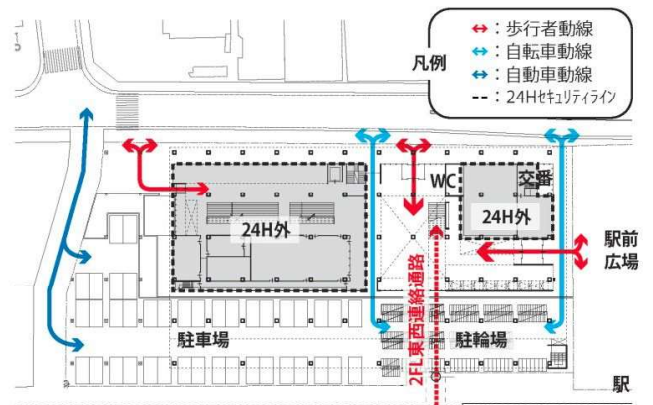
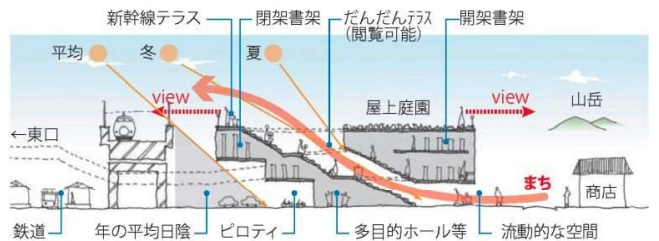
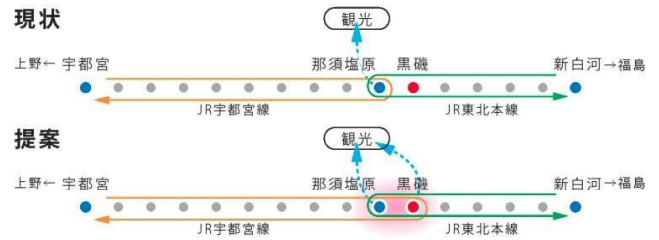
駅にもっとも近い場所に、電車を、待つ間にも立ち寄れる広場と図書館です。いくつもの活動が日常的に連なりながらも、図書館の機能として大切な、にぎやか〜静かな空間へとつながるグラデーションを形成します。

“駅→広場→わくわくホール→図書館→だんだんテラス”の歩ける図書館です。中に入ると、展示コーナーやわくわくホール、屋内外の“だんだんテラス”の順から空まで、視界が広がります。

“だんだんテラス”と呼ぶこの空間は、空へ向かうステップガーデンの空間イメージであり、最上階の新幹線テラスや屋上庭園は、鉄道や山脈まで見渡せ、最高の展望テラスです。

3-3. まちの中心としてのありかた

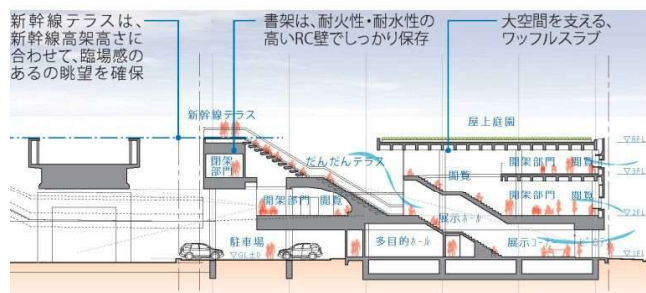
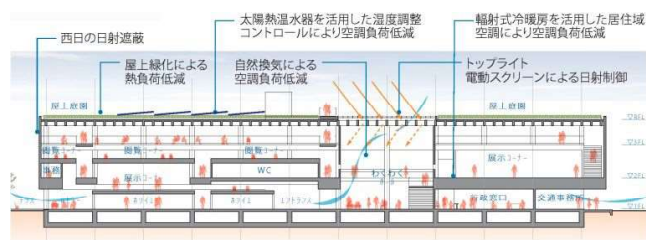
黒磯駅の「西口駅前広場」「東西を結ぶ連絡通路」「西側のスーパーや住宅街」「北側の商店街」との回遊性を作り出すことが本施設の使命であり、まちの活性化につながると考えています。人々を引き付け、寄道したくなる好奇心を沸き立たせる施設であると同時に、駅前広場と連携した公園のような憩いの場となることを考えます。また、道の駅のように24時間開放エリアを大きく確保することで、駅の西口・東口利用者ともに、利便性が高くなり、身近で、地域に馴染んだ施設へと成長すると考えています。



3-4. 黒磯らしい表情、メンテナンス・管理の省力化

黒磯らしい地産地消の空間づくりで、地域図書館の表情をつくります。地域の素材を積極的に活用することで、地域に貢献するとともに親しみと温もりのある図書館を実現します。

また、耐久性・維持管理に配慮した工法・納まり・仕様を提案し、長寿命でメンテナンスがしやすい施設計画によって、管理の手間とコストが最小限になるように計画します。



3-4. 耐久性と合理性を兼ねそろえた構造計画

主体部分は堅牢なコンクリート造のシンプルなラーメン構造とし、均等なスパン割りとすることで、耐久性のある安全で合理的な構造計画とします。

だんだんテラスや展示コーナーなどは、軽快な鉄骨と木による混構造の採用を検討します。

広いスラブ面は、遮音性に優れるワッフルスラブを採用し、大きな空間をつくり出します。ワッフルスラブは、コンクリートの壁量が少なくなり、建物の軽量化が図れるとともに、コスト縮減にも寄与します。



3-5. 環境に配慮し、LCCを低減する設備計画

全般的に輻射冷暖房を主体とした居住域空調方式を検討します。大きな空間が連続する屋内のだんだんテラスや吹抜け空間では、パッシブな空調を心掛け、中間期には外気による自然換気を考えます。機器は維持管理の容易なものとするなど、省エネルギー、省コスト化を図りランニングコストの低減に努めます。

3-6. まちのみんなで作る図書館

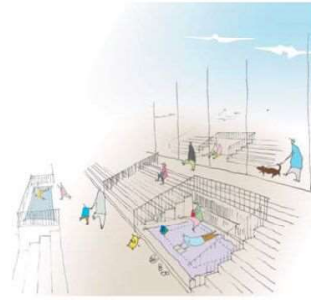
計画から、建設、その後の施設利用にいたる、幅広い市民参加によって、建築をつくるそれ自体を、人と文化が交錯し啓発し合う「駅」のようにしたいと考えています。建築づくりの各プロセスにおける市民との対話やワークショップなどを必要に応じて開催し、十分な意思の疎通を図り、設計段階から、市民の皆さんと、誰もが安心して利用できる、新しく楽しい図書館づくりを目指します。



3-7. “だんだんテラス” の使い方

“だんだんテラス”と呼ぶこの空間は、空へ向かうステップガーデンの空間イメージです。風通しよし、光通しよしの気持ちの良い施設のアメニティの中心であるとともに、市民におけるコンサートや展示会も可能なイベント空間として活躍します。上部から大型スクリーンや照明バトン、垂幕などが吊るすことができ、空間全体を劇場のような祝祭空間として演出することも考えています。

日常：自由な使い方



イベント：黒磯シアター等

